

令和4年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (センター回答分)

対象数	回答数	回答率
11	11	100.0%

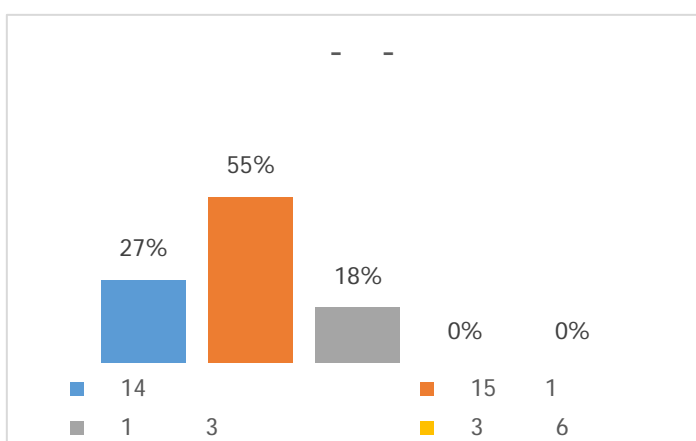
1 専門的医療としての機能

ア 認知症原因疾患別の鑑別診断の実施

① R4.4.1 から R5.2.28 までの初診までの待機日数

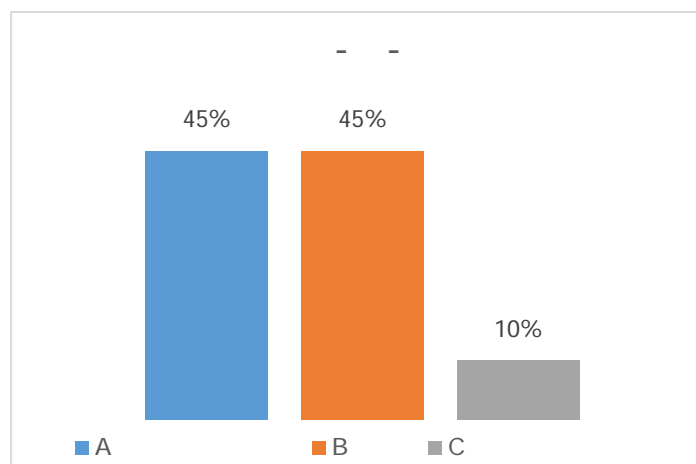
(緊急枠等を除く、予約受付時からセンターでの初診までの平均日数)

回答	回答数	パーセンテージ
① 14日未満	3	27%
② 15日～1か月未満	6	55%
③ 1か月～3か月	2	18%
④ 3か月～6か月	0	0%
⑤ 6か月以上	0	0%
合計	11	100%



② ①の日数について、どのような評価をしているか

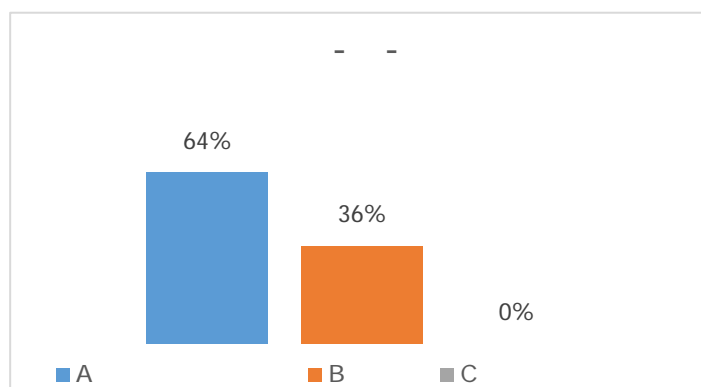
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	45%
B 普通	5	45%
C 改善の余地がある	1	10%
合計	11	100%



イ 治療方針の選定に関すること

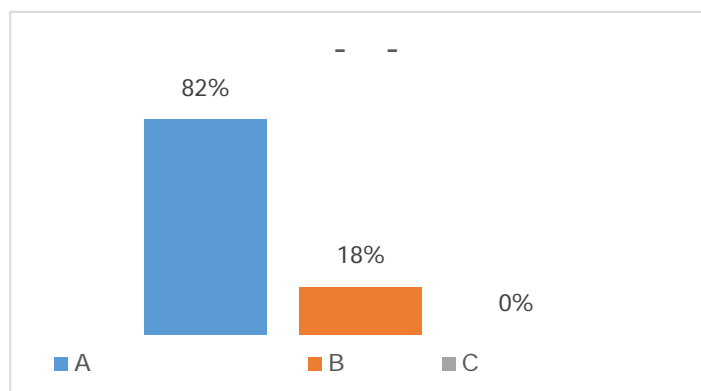
① 受診者に対して診察の結果について十分に説明を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	7	64%
B 普通	4	36%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



② 受診者の家族に対して診察の結果について十分に説明を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	9	82%
B 普通	2	18%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%

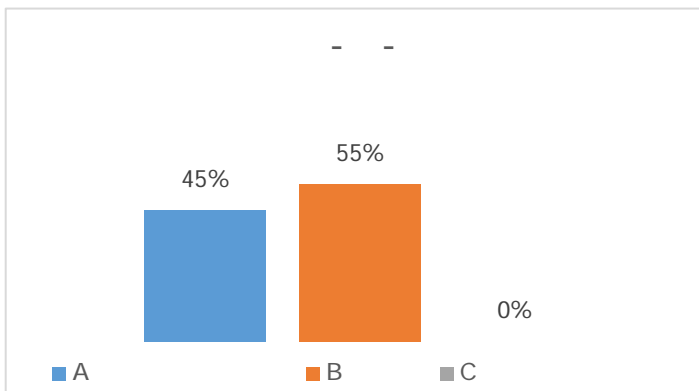


①、②において工夫している点

- ・診察の結果のみではなく家族の関わり方や、介護保険サービス等社会資源の利用案内を含めて説明を行い、生活への不安の軽減に努める。
- ・診察に相談員も立ち会い、診察後に話を聞くなかで、診断説明の理解度を把握し、フォローしている。必要な場合には、次回の診察で再度医師から説明する。
- ・予約枠に近日で空きがない場合は、予約外での受診ができることを案内している。
- ・物忘れ外来で予約をとり、初診の方は1時間枠を、再診の方は30分枠をとり、それぞれ対応。

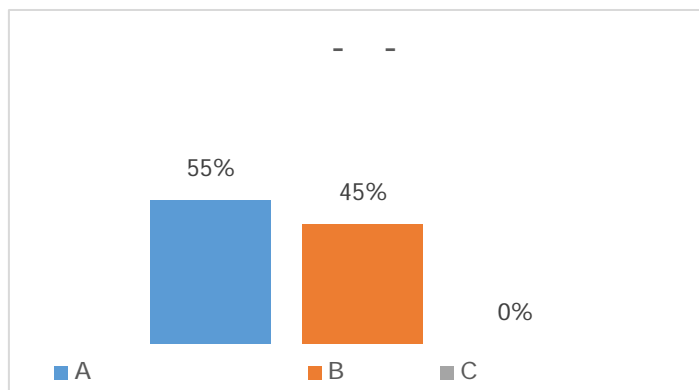
③ 治療方針を決定した後、安定期の医療ケアについて、適切にかかりつけ医に対応を依頼しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	45%
B 普通	6	55%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



④ 介護サービス等が必要な場合、適切な情報提供等を行っているか

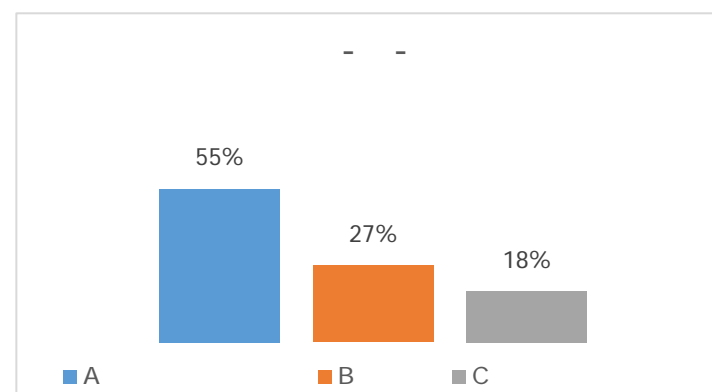
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	55%
B 普通	5	45%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



ウ 認知症の行動・心理症状と身体合併症の急性期対応に関すること

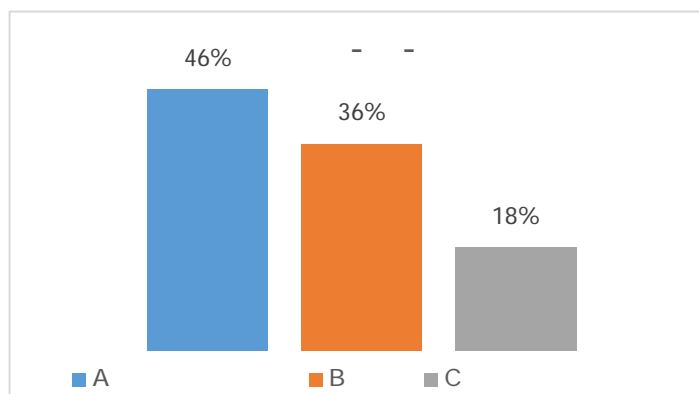
① 行動・心理症状に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	55%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	2	18%
合計	11	100%



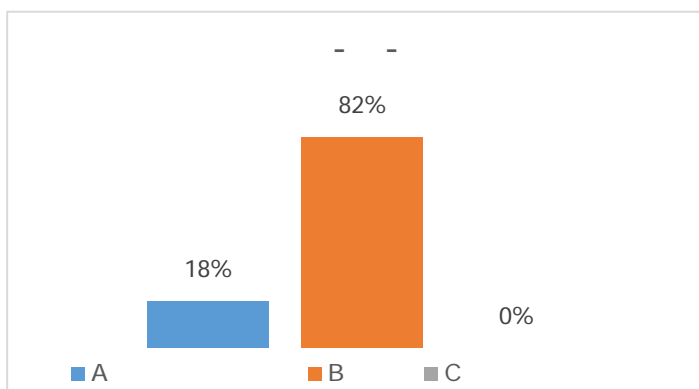
② 身体合併症に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	46%
B 普通	4	36%
C 改善の余地がある	2	18%
合計	11	100%



③ 満床時など入院対応ができない場合等に備えて、日頃から他の専門医療機関との連携に努めているか

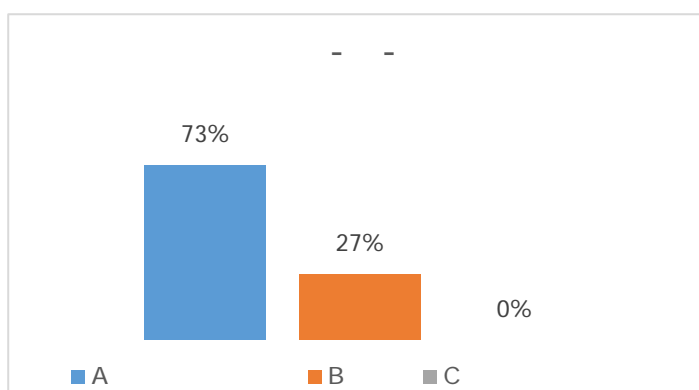
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	2	18%
B 普通	9	82%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



エ 専門医療相談の実施

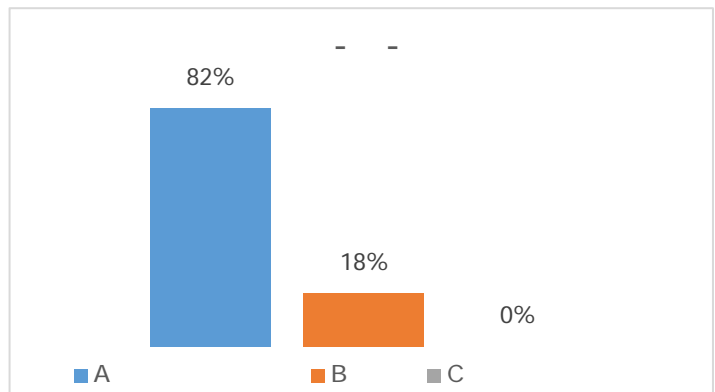
① 専門医療相談が実施できる体制が確保され、電話、面談等により相談が適切に実施されているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	8	73%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



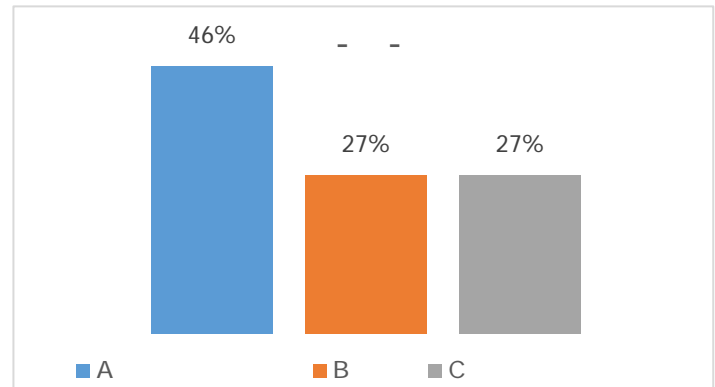
② 本人や家族等からの相談に対し、医療の提供が必要な場合には医療機関を、介護サービスや福祉サービスの提供が必要な場合には市町村や地域包括支援センター等を紹介しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	9	82%
B 普通	2	18%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



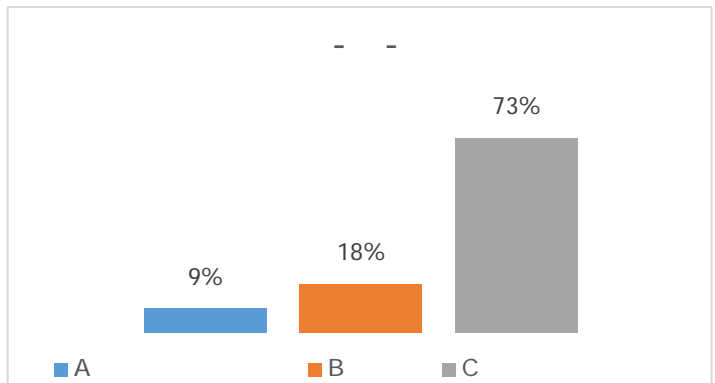
③ 平日の昼間に相談できない方にも対応するため、必要に応じて土曜日等にも相談窓口を開設しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	46%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	3	27%
合計	11	100%



④ 相談応需マニュアルを整備しているか

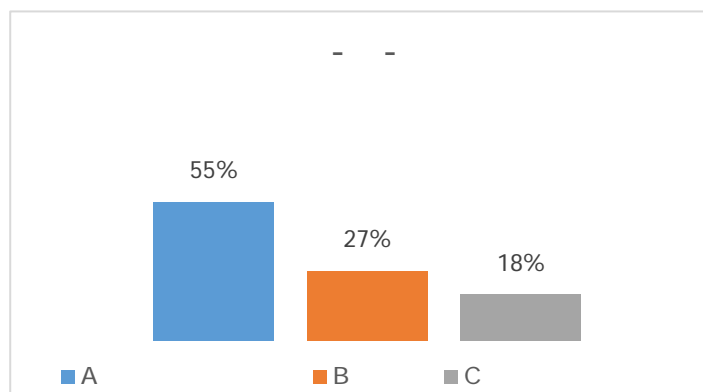
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	1	9%
B 普通	2	18%
C 改善の余地がある	8	73%
合計	11	100%



オ 診断後の相談支援の実施

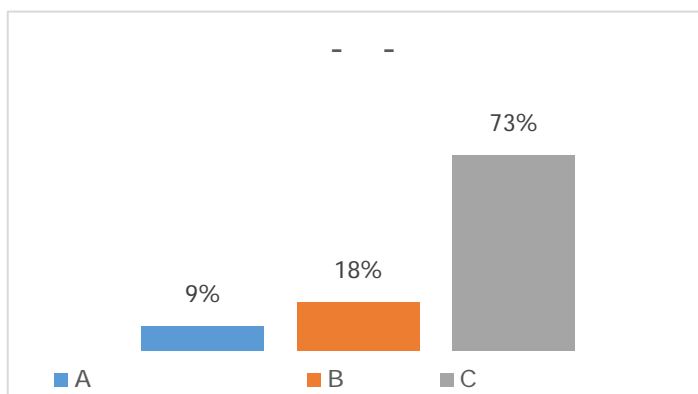
① 相談員による診断後の相談支援を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	55%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	2	18%
合計	11	100%



② ピアカウンセリングなどのピアサポート活動や交流会を実施しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	1	9%
B 普通	2	18%
C 改善の余地がある	8	73%
合計	11	100%

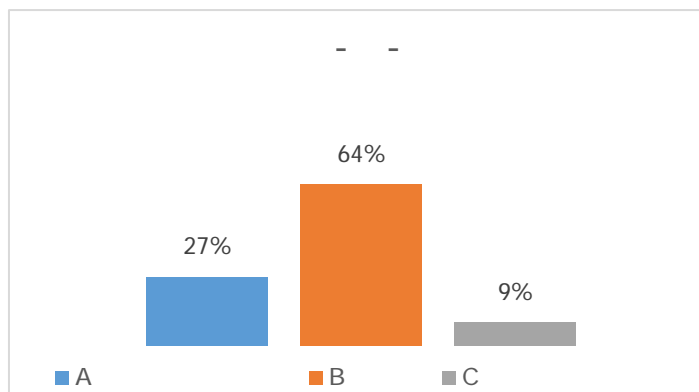


2 地域連携拠点としての機能

ア 認知症疾患医療センター連携会議の運営状況

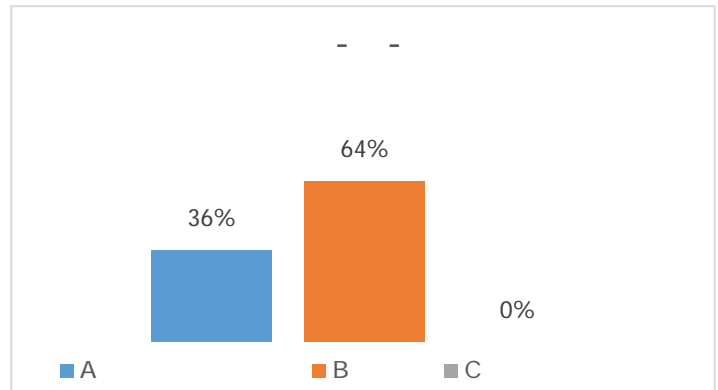
① 地域の認知症に関する支援体制づくりに関する検討等ができていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	3	27%
B 普通	7	64%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



② 担当圏域内の初期集中支援チームや地域包括支援センター、ケアマネジャー等からの
認知症疾患医療センターに対する要望を把握しているか

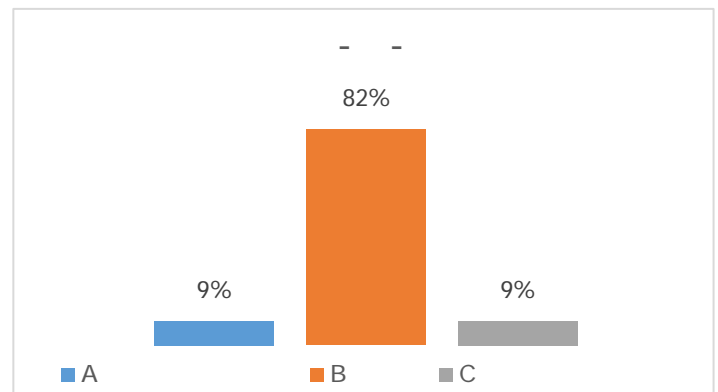
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	4	36%
B 普通	7	64%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



イ 研修会の開催状況

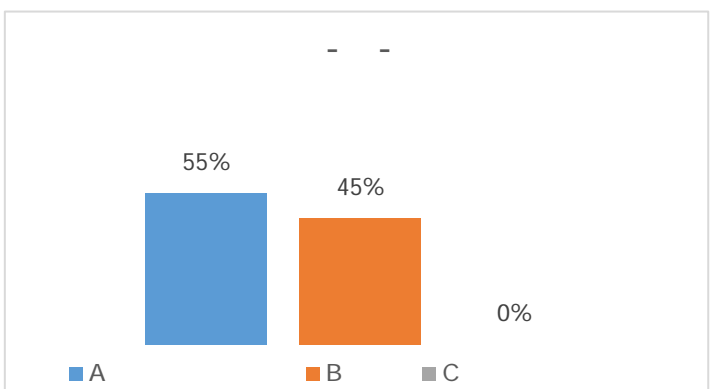
① 研修の企画立案については、前年度のアンケート結果や、地域の状況に対して考慮
したプログラムになっているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	1	9%
B 普通	9	82%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



② 関係機関の実施する認知症医療に関する研修へ協力しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	55%
B 普通	5	45%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



3 センター事業に携わる職員の研修等（人材育成等）の実施状況

- ・ 病院職員。講義形式。「レビー小体型認知症について」「身体拘束について」
- ・ 医療法人明星会の職員に対しての認知症の勉強会を実施している。（BPSD 対応法や若年性認知症について等）
- ・ 院内職員に対してオンデマンド研修を行っている。内容は身体拘束、BPSD への対応など。

4 その他（センターとして評価できる取組み等について自由記載）

- ・ 1-イの「本人への病名告知」は大変デリケートな問題である。告知を行い、直後から治療やリハビリを始めて寛解に至るといふ治療方針の道筋がしっかりしていない認知症領域の疾患に関しては相応の配慮が必要となる。一方家族に対して、本人を支援し、協力してもらうこともあり、疾患への理解を得てもらうための説明を十二分に行うべきである。
- ・ 認知症予防、寝たきり予防のため近隣住民が行う体操教室開催の支援（プログラムの提案など）や公的サービス以外での住民ボランティアによる移動・外出支援、活動の場づくり、高齢者見守り活動の支援を積極的に行っている。松戸市のボランティア「オレンジ協力員」の活動援助を行っている。令和5年4月より松戸市から地域包括支援センターに委託された「多機能コーディネーター」（生活支援体制整備）事業の支援を行う。
- ・ 初めての取り組みとして、ピアの会『みんなで語る会』を開催し、参加者から今後も継続して語り合いたいと好評を得ている。
- ・ センター相談員がコグニサイズ実践者研修（長寿医療研究センター）を受講した。今後、研修会、市民講座等の活動内容に盛り込みたいと計画している。
- ・ 前年度同様に、患者（家族）一人一人に相談員から声を掛け、話しやすい環境をつくり、困りごと等に丁寧に対応した。
- ・ 初期診断後もいつでも相談ができるようにしている。
- ・ かかりつけ医との連携のための研修会などを開催している。
- ・ 市行政や地域包括支援センターなどと協働して地域連携活動を行っている。
- ・ 日頃より地元の他機関の関係者との連携や顔の見える関係づくりに努めている。
- ・ 地域のショッピングセンターで実施された認知症・介護に関わる相談会を支援し市民への啓発活動を行った。
- ・ 認知症の普及啓発活動として、子ども向けの認知症教育オンラインワークショップの開催、子供向けの認知症教育本の製作を行った。

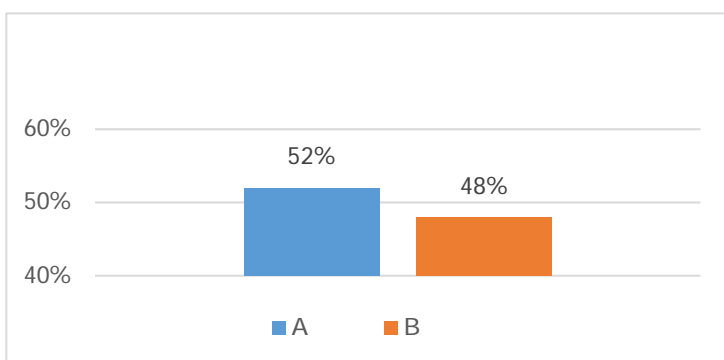
令和4年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (認知症サポート医回答分)

対象数	回答数	回答率
100	25	25%

【 質問 】

1 千葉県内の認知症疾患医療センター（以下、センター）と連携したことがありますか

回答	回答数	パーセンテージ
A あり	13	52%
B なし	12	48%
合計	25	100%



「B なし」と回答した理由（質問9の回答より抜粋）

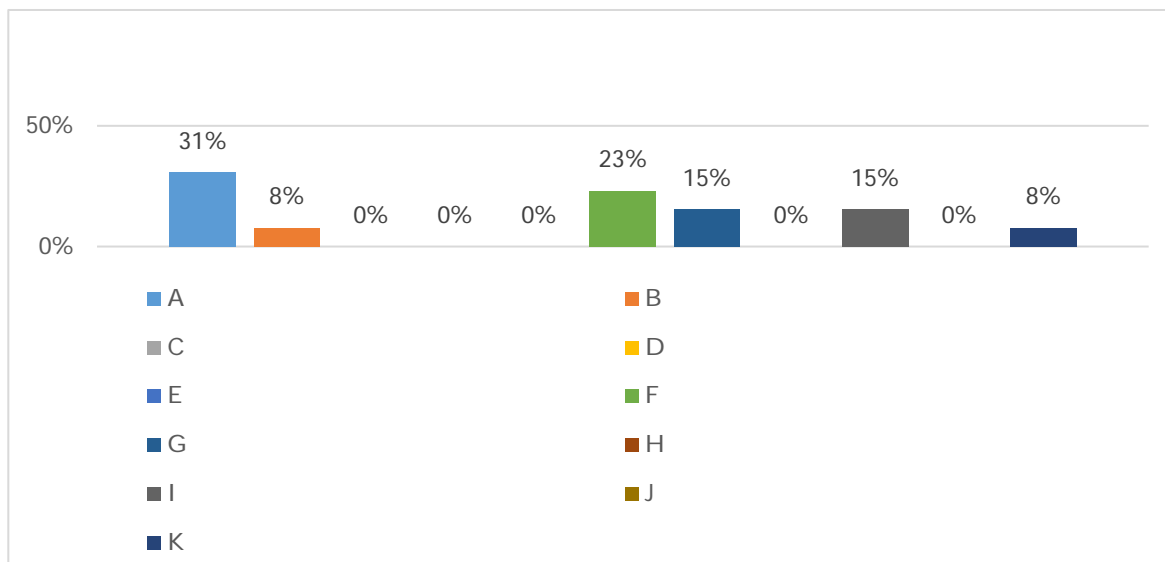
- ・ どの医療機関が該当のセンターか、まずよくわからない
- ・ センターではない医療機関と連携している。市内に無いのが残念。
- ・ 現在県外に主な医療機関が移っており、連携ができていない。

転勤の折に、千葉県から登録の変更を申し出たのですが、新しい地域で相談してくださいとのことだったと思う。

※ 質問2から7は、質問1で「A あり」と回答したに認知症サポート医のみ回答の対象。

2 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

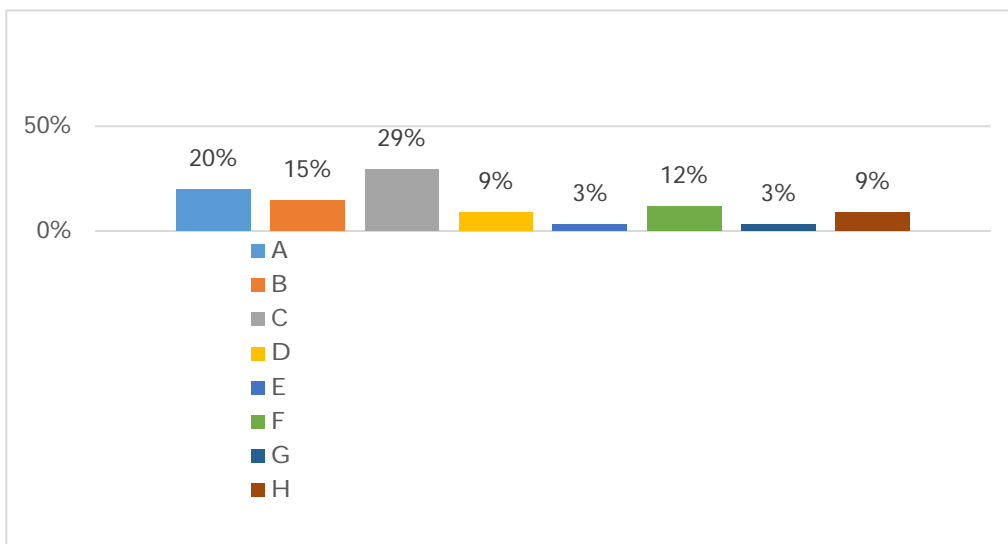
回答	回答数	パーセンテージ
A 八千代病院	4	31%
B 千葉病院	1	8%
C 旭神経内科リハビリテーション病院	0	0%
D 北柏リハビリ総合病院	0	0%
E 日本医科大学千葉北総病院	0	0%
F 総合病院国保旭中央病院	3	23%
G 浅井病院	2	15%
H 東条メンタルホスピタル	0	0%
I 袖ヶ浦さつき台病院	2	15%
J 千葉ろうさい病院	0	0%
K 千葉大学医学部附属病院	1	8%
合計	13	100%



3 連携した内容について回答してください

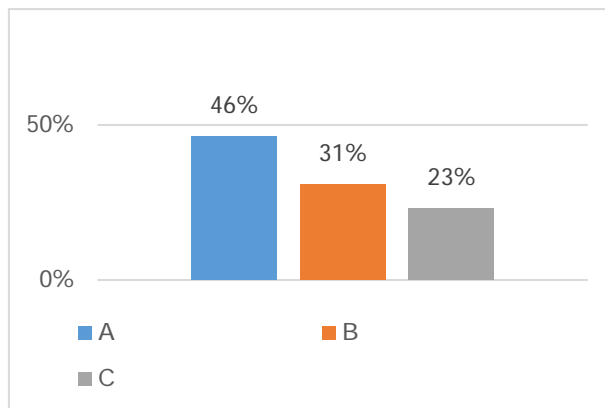
回答	回答数	パーセンテージ
A 初期診断依頼	7	20%
B 鑑別診断依頼	5	15%
C 認知症の行動・心理症状の治療依頼	10	29%
D 身体合併症の急性期治療依頼	3	9%
E 診断後の連携・協力	1	3%
F 入院先紹介依頼	4	12%
G センター主催の研修等への参加・協力	1	3%
H その他 (※)	3	9%
合計	34	100%

(※) H その他 の回答内容 免許更新診察



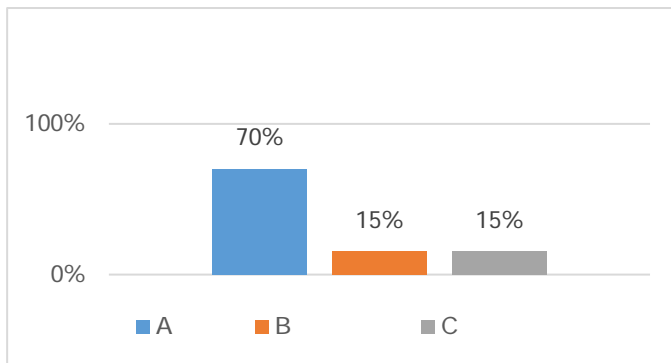
4 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	46%
B 普通	4	31%
C 改善の余地がある	3	23%
合計	13	100%



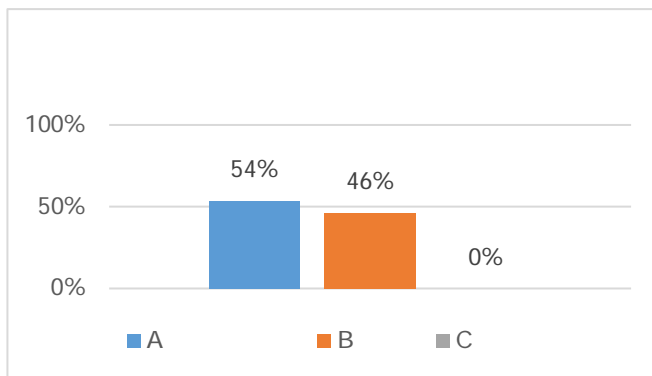
5 患者をセンターに紹介してから受診までの待機日数は適切と感じましたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 適切	9	70%
B やや長い	2	15%
C 大変長い	2	15%
合計	13	100%



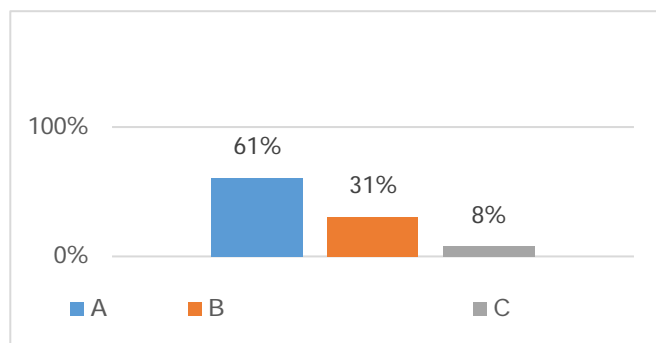
6 治療方針等について、十分な情報提供がありましたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分あった	7	54%
B 普通	6	46%
C 不十分	0	0%
合計	13	100%



7 センターの利用について、患者は満足していると思われますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 思う	8	61%
B どちらとも言えない	4	31%
C 思わない	1	8%
合計	13	100%



8 今後センターと連携を望むこと（自由記載）

アンケート総回答数	<質問8>回答数	回答率
25	14	56%

- ・ 診断目的で紹介された患者さんが、「心配いらないから経過観察不要」となった場合は紹介元に返信、終了で良いと思うが、認知症であったり、軽度認知機能障害であったり、診断困難で経過観察となった場合、紹介元が専門医療機関でなければ経過観察可能な医療機関に引き継ぐ仕組みが必要。センターで診断後どのような経過をたどったかの追跡調査した結果を教えてください。
- ・ 新薬適応の診断とそのフォロー。
- ・ 薬処方されて家族がよくなったと満足する例はない。診断がつくだけ。
- ・ 現在県外に主な医療機関が移っており、連携ができていない。
転勤の折に、千葉県から登録の変更を申し出たが、新しい地域で相談してくださいとのことだったと思う。そういう横のつながりも作って頂くとよいのかなと思った。
- ・ 東葛南部は急速に高齢化が進んでおり、認知症高齢者が増えている。以前、認知症初期集中支援チームが関与したケースで多くのスタッフの尽力により市外のセンターと連携できた。市川市もしくは近隣浦安市、松戸市にセンター設立を望む。診断に関して東京歯科大学市川総合病院、国立国際医療研究センター国府台病院が丁寧に対応、BPSD 関連には中山病院や総武病院が連携室を介して対応していただいているのが現状である。
- ・ 一刻の猶予もない状況で相談してもすぐの受け入れが難しく、何件も問い合わせたり、断られて困ることが多いです。受け皿がもう少し増やせないものでしょうか。
- ・ 今後は普段から顔の見える連携が図れたら良いと思う。例えば、地域連携室の充実など。
- ・ 医療保護入院が必要な方をスムーズに入院させたいので速やかに対応していただける施設の増加を希望する。
- ・ 現時点では、チームでの対応が出来ている。今後、精神疾患が著しい高齢者等の対応となった場合、必要時には連携を図りたい。
- ・ 初期集中支援チームの活動では対象者の家族の同意が得られない事や対象者の拒否により地域包括支援センターと対象者又は対象家庭の間だけの活動になってしまい具体的な支援活動に発展できない事が多く、認知症疾患医療センターにつながるまで進まないことが多い。当エリアのセンターは精神状態の荒廃した患者に対しても適切な医療を提供し、医療・介護の支援を提供する側への協力体制もできており現状にとっても満足している。

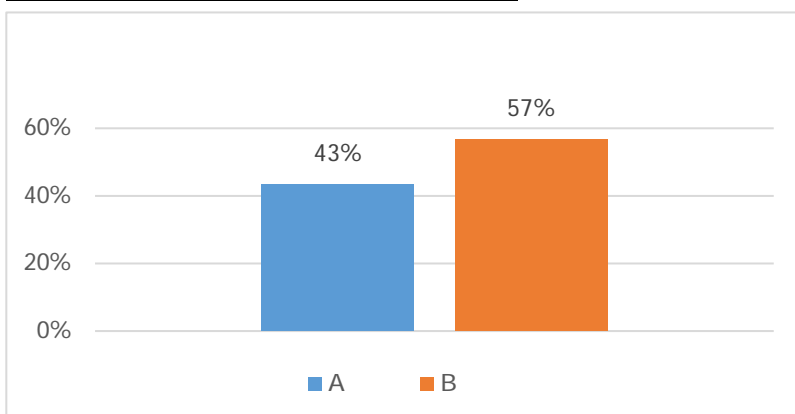
令和4年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (市町村・地域包括支援センター回答分)

対象数	回答数	回答率
278 (54 市町村、224 地域包括支援センター)	141	50.7%

【 質問 】

1 千葉県内の認知症疾患医療センター（以下、「センター」という。）と連携したことがありますか

回答	回答数	パーセンテージ
A あり	61	43%
B なし	80	57%
合計	141	100%



「B なし」と回答した理由（質問7の回答より抜粋）

- ・近隣に該当センターがないため紹介や関わりがなかった。
- ・どのような時に連携することができるのかが不明。
- ・大きな病院過ぎて連携しにくい。壁を感じる。
- ・認知症疾患医療センターがどのような相談にどう対応しているのかよくわからない。
- ・どのような方を相談してよいのか、どのような流れで連携したらいいのか等、認知症疾患医療センターと関わりがなくわからない。
- ・予約をしてから受診日までにとっても時間がかかる。特に精神症状が強いケースなど受診できず困ることがある。
- ・具体的な役割がわかりにくい。
- ・受診拒否が強い方に対してのアプローチ。入院前提の受診を希望したが、結局受診でき

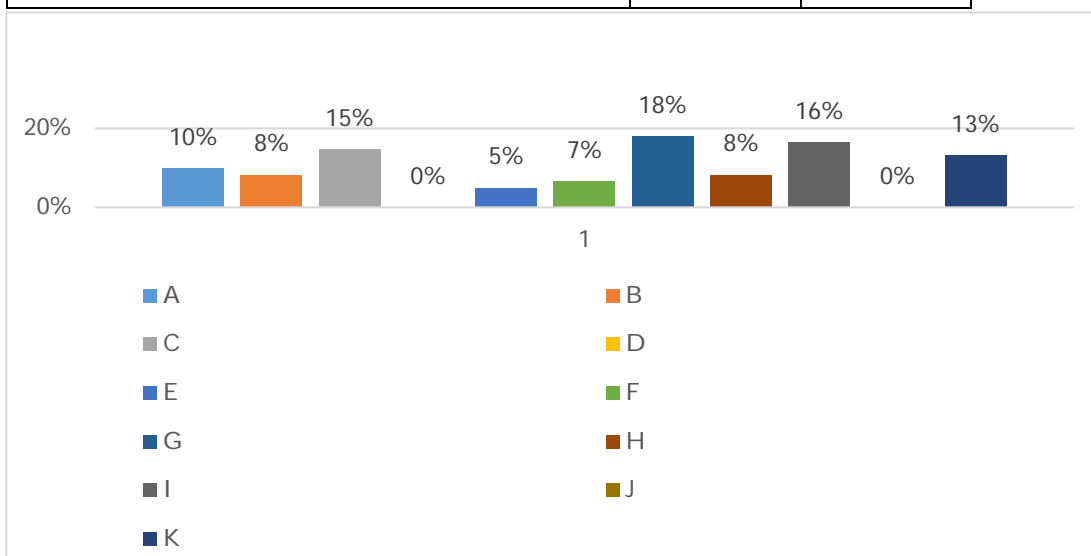
ず医療に繋がらなかった。

- ・地域柄、近隣に国立国府台病院があるため相談はこちらが多い状況

※ 質問2から6は、質問1で「A あり」と回答した市町村・地域包括支援センターのみ回答の対象。

2 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

回答	回答数	パーセンテージ
A 八千代病院	6	10%
B 千葉病院	5	8%
C 旭神経内科リハビリテーション病院	9	15%
D 北柏リハビリ総合病院	0	0%
E 日本医科大学千葉北総病院	3	5%
F 総合病院国保旭中央病院	4	7%
G 浅井病院	11	18%
H 東条メンタルホスピタル	5	8%
I 袖ヶ浦さつき台病院	10	16%
J 千葉ろうさい病院	0	0%
K 千葉大学医学部附属病院	8	13%
合計	61	100%

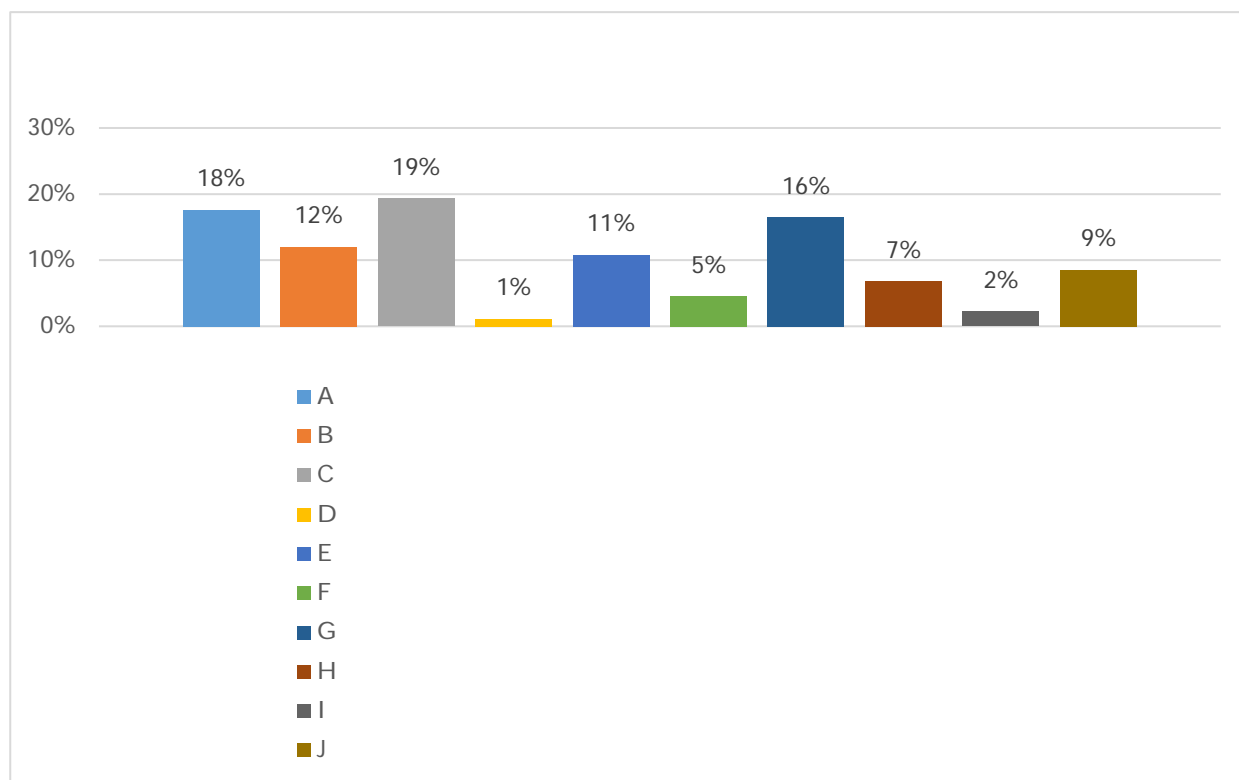


3 連携した内容について回答してください

回答	回答数	パーセンテージ
A 初期診断依頼	31	18%
B 鑑別診断依頼	22	12%
C 認知症の行動・心理症状の治療に係る相談	34	19%
D 身体合併症の急性期治療に係る相談	2	1%
E 診断後の連携・協力	19	11%
F 医療機関の紹介	8	5%
G センター主催の研修への参加	29	16%
H 地域への普及啓発や一般相談等の協力依頼	12	7%
I 当事者等による相談支援や交流会への協力（ピアサポート活動）	4	2%
J その他（※）	15	9%
合計	176	100%

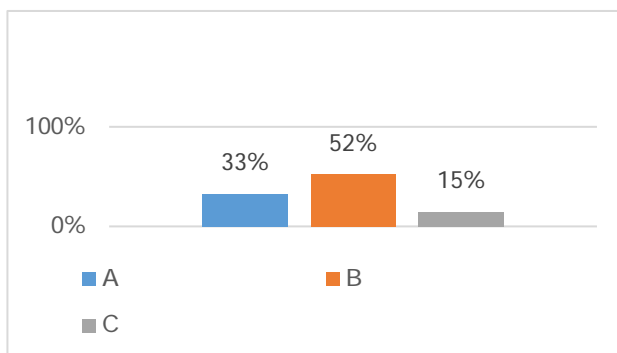
※ 「J その他」の回答内容

- ・当市の研修会に浅井病院の相談員に講師として来ていただいた。



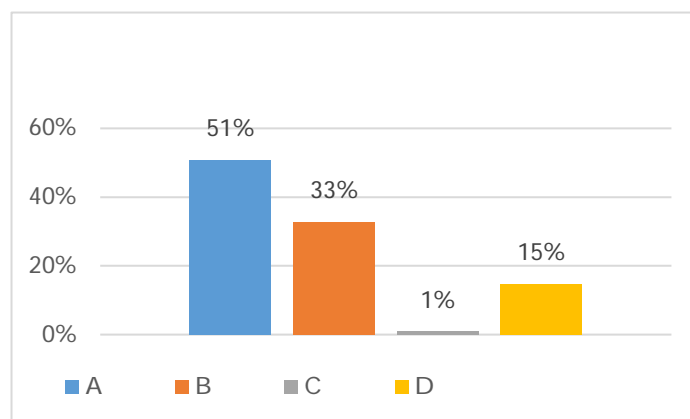
4 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	20	33%
B 普通	32	52%
C 改善の余地がある	9	15%
合計	61	100%



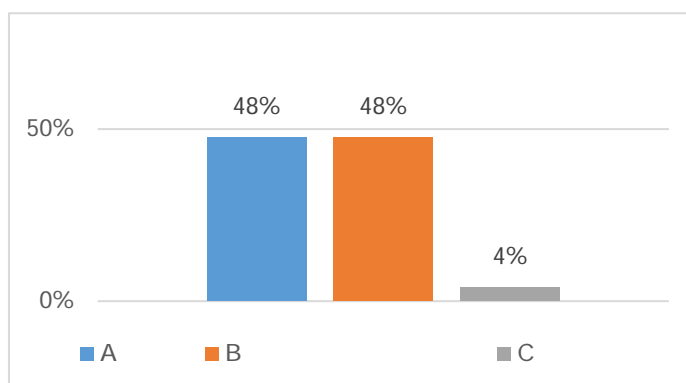
5 センター主催の研修会はいかがでしたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 満足	31	51%
B 普通	20	33%
C 不満	1	1%
D 参加したことがない	9	15%
合計	61	100%



6 センターの利用について、患者は満足していると思われますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 思う	29	48%
B どちらとも言えない	29	48%
C 思わない	3	4%
合計	61	100%



7 今後センターと連携を望むこと（自由記載）

※重複する内容は一部抜粋して掲載しています。

アンケート総回答数	<質問7>回答数	回答率
141	91	64.5%

(環境整備)

- ・センター機能として医療機関の紹介・相談があるので、相談できる医療機関を地域に増やして欲しい。
- ・気軽な相談・受診窓口としての機能強化

(若年性認知症について)

- ・若年性認知症の方の支援方法（経済的、就労）などを教えていただくと良い。
- ・認知症の相談について、認知症初期集中支援チームに頼ることが多いのが現状である。若年性認知症のケースがあれば相談させていただきたい。
- ・若年性認知症の方について、情報共有等の連携ができればうれしい。

(認知症初期集中支援チームとの連携)

- ・認知症初期集中支援チームと連携して対応しても介入が難しいケース等について、後方支援をして頂けるとありがたい。
- ・圏域ごとの認知症疾患医療センターの場合、細かい相談等がしづらい。各市町村単位で認知症サポート医（医療機関）をさだめて認知症初期集中支援チームと連動させることで相談しやすい連携ができると思う。
- ・認知症初期集中支援チームの効果的な活用方法について、具体的な連携方法を確認したい。また実際に、初期集中支援チームとして対応した件数やどのような支援に繋がったか事例報告をお願いしたい。
- ・チーム員として介護・医療サービスの拒否や、認知症の自動車運転など、支援が困難な場合がある。その際、連携や相談が可能であればお願いしたい。

(先行事例・情報発信・研修会について)

- ・認知症診断・治療等の対応が可能な病院や診療所のリストを作成して欲しい。さらに、随時アップデートもして欲しい。各病院・診療所の特徴が分かる一覧が欲しい。
- ・認知症疾患医療センターにはどのような相談が入るのか、どのような対応をされているのか等、具体的な事例を知りたい。

- ・認知症疾患医療センターの機能を上手く活用し、認知症に関する最新情報などを定期的に発信してほしい。
- ・積極的に圏域内の関係機関へ自身の相談機関としての「強み」や「具体的な活動内容」についての情報発信をして欲しい。
- ・今後の研修として、認知症の進行や症状別(問題行動を含む)の服薬調整について学ぶ機会があればよい。
- ・報告会や研修を圏域ごとに実施してほしい。
- ・気軽に使える情報共有するためのシステム構築が出来ると良い。
- ・認知症の本人だけでなく、家族支援が大切であると日々感じている。家族支援に関して今後の取り組みをどのようにするか助言をもらいたい。

(連携・予約について)

- ・市境の為、連携を図る際に、医療圏域で会議等を考えると結果的に当包括はどこにも参加し難いという状況になってしまうのではないかと不安がある。
- ・圏域内の病院が遠方で連携を図ることが難しい。
- ・認知症疾患医療センターと関わりがなく連携方法がわからない。認知症疾患医療センターの取り組み等がわかるような場があると有難い。
- ・外来予約が3か月も先になり、大学病院の立場を優先しているところも改善してほしい。
- ・初期受診までの効率化、迅速化を御検討いただきたい。
- ・認知症専門医・サポート医がサブセンター的な役割を持てるとよい。センターと地域の医療機関との連携に欠ける。
- ・医療機関、特に地域のかかりつけ医院との連携を望む。
- ・認知症の進行状況によっては治療になかなか繋がられないケースがあるため、訪問診療であったり、入院治療へ繋がられる働きかけで連携ができると良いと思う。
- ・敷居が高い印象があり、受診時の連携時に消極的になってしまっていることもある。
- ・入院加療を家族が希望している時に早急に対応していただけて助かっている。

(対応困難ケースへの対応について)

- ・受診を拒否する高齢者についての相談や緊急時の相談がしやすい体制にしてもらいたい。
- ・医療保護入院が必要になった時に受け入れ先の有無等をお教えいただけると助かる。